



右翼に頭が上がらない門真市共産党！ 裁判報告集会で行政・市民威迫の右翼と 仲良くご一緒するのが当たり前の異様さ！

●これが証拠写真のほんの一例だ！ 2016年4月7日：法廷後の裁判報告集会（弁護士会館ロビーで）



たしかに裁判傍聴は何人も自由なのだから、右翼が来ても誰も文句は言えない。▲だが、「『原告団が行なう裁判報告集会』に右翼ゴロ共を参加させるか否か」は、あくまで裁判原告団の責任で決めるものだ。

■しかし竹内社長＋12人の門真市共産党陣営の活動家（共産党の市長選団体である「住みよい門真をつくる会」の幹部達＝元共産党議員や元市長候補を含むお歴々！）によって構成された「トボス訴訟原告団」は、

●トボス問題を口実にして執拗に門真市政への介入を図り、●大量の大音響街宣車で市民に多大な恐怖心を与え、●市職員と「共産党や緑風クラブ以外の議員達」に威圧を与え、●戸田に対して「右翼の自分に毎月約100万円の秘密献金をしている」とか「戸田議員から議会質問のための金をせびられた」とかの全くのねつ造デマ宣伝もしているような反社会的ゴロ共を「あえて原告団の裁判報告集会に自由に参加させ続けて、情報を与えてきた」のだ！

▲本来ならば、「原告団主催の裁判報告集会には、市民威迫街宣をしてきた右翼は参加させない！」という毅然たる態度を取るのが「常識」というものだが、門真市共産党にはそういう「常識」が無い！

◆なるほどこの裁判は「元右翼の竹内社長が起こした裁判に、共産党がお願いして原告参加させてもらったもの」だが、共産党側12人が原告に加わって原告団は「竹内さん1：共産党側12」となったのであり、「原告団の多数意志で裁判総括集会等の原告団主催会合からの右翼排除は簡単に決められるはず」だ！ ▲しかしそれを全然考えないのが「右翼の行政介入威圧を批判した事が一度も無く、右翼襲来の事実すら市民に隠す門真市共産党」なのだ！

参考情報：■右翼堂村と吉水議員が隣席で談笑する傍聴席！足立・糸も来て盛況（2015年12/22法廷）



～「トボス29億円補償非難謀略」とは？

それは、A「反維新の自民党穏健派市政を転覆させたい者達」の望み通りに、B「毎日新聞テレビを筆頭にしたマスコミ」と「門真市と東大阪のボス右翼が仕切る多数の右翼団体」が「29億円建物補償は不正な税金浪費だ！」と執拗大量に騒ぎ立て、Cその流れに「緑風・維新グループ」が乗っただけでなく、「政治センス低劣な門真市共産党」もホイホイ乗って同じ非難宣伝をさらに精密大量執拗に続けて「愚劣な地域政治」を重ねるといふ、門真市でかつてなかった異様な「謀略デマ政治事件」である。（・・・そして園部市政が倒され維新市政になった！）

建物保障の29億円については、共産党の福田議員も議会で「妥当な金額だ」と言っていた2013年。突如として11/1毎日新聞が「29億円もの税金浪費！」と園部市政を叩き、マスコミ全体が園部市政叩き一色になった。

その報道直後、突如大量の右翼街宣車が門真市に市長に押し寄せ、門真市を恐怖の雰囲気包み、「この騒ぎはおかしいぞ」と分析した戸田への攻撃が始まった。（自民や公明の議員にも威圧。▲戸田には最初から名指し攻撃）

2014年開始の通称「トボス裁判」で「こうすれば安く上がったのに」という「原告団の対案」は「2010年3月に市がトボスを買えば安く上がった」といふ、「議会でそんな事を言ったら大恥を書くだけの愚論」でしかなかった。（体育館の面積の2倍もの土地を、残り部分は使用目的無しで買うなんて事は行政として絶対禁止事項だし、市負担は他の要件からはるかに高額になるので！）それゆえこの裁判は、3審とも原告完全敗訴に終わった

■マスコミはあれほど煽っておきながら何の報道検証もせず、高裁判決も最高裁決定も報道せず（！）、▲市民に行政不信を擦り込んだまま放置の無責任！ ■門真市共産党の「奮闘」は「赤旗」では一度も記事になっていない！ 共産党本体からは「全国に報道出来ない活動」とみなされているのだろう。大阪府共産党レベルでも無視されてる。